

精密検査が必要となった方へ【和歌山市】

今回のがん検診の結果、「精密検査が必要」となりました。下記の「精密検査について」をお読みになり、できるだけ早く医療機関で精密検査を受けてください。

【精密検査について】

がん検診で「精密検査が必要」と判断されたということは、「がんの疑いを含め、何らかの異常（病気）がある可能性が高い」ということです。より詳しい検査を行い、本当に異常があるかどうか調べる必要があるため、必ず精密検査を受けてください。

1. 精密検査の医療機関

まずはかかりつけ医にご相談ください。

かかりつけ医がない場合は、和歌山市保健所地域保健課（488-5121）へお問い合わせいただくか、和歌山県ホームページに掲載されている各がん検診の「精密検査協力医療機関一覧」をご参照ください。

和歌山県ホームページ「わかやまがんネット」で検索してください。

2. 検診結果について

検診結果や精密検査の結果は、和歌山市と関係機関（検診機関・精密検査実施医療機関）で共有されます。和歌山市はこれらの結果をがん検診の精度向上のために使用します。

3. お願い

- ・受診する際、予約・絶食が必要な検査もございますので、医療機関にてご確認ください。
- ・がん検診を受けた医療機関にてお受け取りになった、受診票の写し、精密検査依頼書、精密検査結果報告書、返信用封筒は、精密検査を受ける医療機関に必ずお渡しください。
- ・精密検査は、保険診療となりますので、健康保険証を必ずご持参ください。

※裏面もお読みください。

精密検査の方法

主な検査方法は以下のとおりです。

胃がん検診

◎胃内視鏡検査

X線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。

検診が胃内視鏡検査の時は、検診時に同時に生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合があります。



大腸がん検診

※便潜血の再検査は、精密検査ではありません。

◎全大腸内視鏡検査

肛門から内視鏡を挿入して大腸を調べます。必要に応じて組織を採取して診断します。

◎内視鏡検査と大腸のX線検査の併用法

内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。肛門からバリウムと空気を注入し、大腸全体をX線写真で様々な方面から撮影します。

肺がん検診

◎CT検査

X線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。

◎気管支鏡検査

気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。

乳がん検診

◎マンモグラフィの追加検査

疑わしい部位を多方面から撮影します。

◎超音波検査

超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。

◎細胞診、組織診

疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し、悪性かどうか診断します。



子宮頸がん検診

◎子宮頸部の細胞診

子宮頸部を、専用の器具で擦って細胞を取って、がん細胞など異常な細胞がないか調べます。

◎コルポスコープ検査

コルポスコープ（腔拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つければ、組織を採取し、悪性かどうか診断します。細胞診の結果によっては、HPV（ヒトパピローマウイルス）検査（血液検査）を行い、コルポスコープ検査が必要かどうか判断することもあります。

【問い合わせ先】

和歌山市保健所 地域保健課 健康づくり班

TEL 073-488-5121